

今月のテーマ リオ・オリンピック

田上市長の 恋とトコ

～自らの思いを皆さんに語るコラム～

リオのオリンピックが終わ
り、次はいよいよ二度目の東京
オリンピックです。

私の記憶にある最初のオリ
ンピックは昭和39年の東京大
会。新品に買い替えたテレビ
を前にして、バレーボールの東
洋の魔女や体操の遠藤選手、
マラソンの円谷選手など、活躍
する日本人選手を応援しまし
た。マラソンのアベベ選手や水
泳のシヨランダー選手などす
ごい外国人選手を見て、世界
の広さを感じたのを覚えてい
ます。

その後、メキシコ、ミュンヘン
…とオリンピックごとに記憶
のアルバムも増えていきまし
た。古いヒット曲を聴くと当時
の思い出がよみがえるように、
オリンピックの記憶はそのこ
ろの思い出と重なります。4年
に一度のオリンピックは、まる
で記憶のチャンネルのようで
す。

リオでは日本人選手の活躍
が光りました。地球の裏側で
の大会だったので、夜中に試合
があることも多く、寝不足に
なった人もおられたのではない
でしょうか。

選手の活躍とともに印象的



なのが、試合後の選手インタ
ビューです。これまでも有森裕
子選手の「自分で自分をほめた
い」や、北島康介選手の「チヨ
ー気持ちいい」など、オリンピッ
ク選手の名言録は、私たちの
記憶に残っています。今回も、
体操の個人総合二連覇を達成
した内村航平選手の「うれしい
より幸せ」など印象に残る言
葉がありました。あなたはど
んな言葉が印象に残りました
か？

オリンピックではありませ
んが、夏休みの始まりのころに
は、スポーツの全国大会に出
場する子どもたちがよくあい
さつに来てくれます。毎回、選
手代表が全国大会に臨む決意
を語ってくれるのですが、印象
的なのは「感謝」の言葉を述べ
る子どもたちが多いことです。

子どもたちの言葉を聞きな
がら、震災などの経験の中で、
私たちは「感謝」の大切さを学
んできたのかもしれないとい

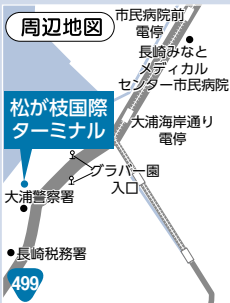
う気がします。

朝起きて「おはよう」と家族
に声をかけたり、一緒に朝ごは
んを食べたりといった日常が、
どれほど幸せで、かけがえのな
い時間だったかということに、
失つて初めて気づくという経
験を、いくつかの災害や事故な
どで私たちはしてきました。

そう考えると、スポーツがで
きることや全国大会に出られ
ることは、とても幸せなこと。
そのことを、多くの人がなんと
なく心の中に感じているよう
な気がするのです。子どもた
ちも含めて。

今回のオリンピックには、難
民選手団が初めて出場しまし
た。これも、平和だからスポー
ツができる、ということを感じ
させることも印象的な出来事
でした。オリンピックは平和の
祭典なのです。

柔道男子81キログ級に出場し
た長崎市出身の永瀬貴規選手
が、見事に銅メダルを獲得し
ました。思わぬ敗戦の後、気持
ちを立て直して銅メダル獲得
に挑み、それを成し遂げた姿
はとても立派でした。4年後の
東京オリンピックでの活躍を
期待しましょう。



出かけて
見る・知る
まちの
オススメ
スポット

ながさき フチ旅行

クルーズ客船を望む
長崎の海の玄関

「グラバー園入口」バ
ス停からすぐの「松が枝
国際ターミナル」。屋上
全面には芝生が広が
り、周辺の港の風景に溶
け込んでいるターミナル
ビルは、市の都市景観
を受賞している。

中には、これまで寄港
した客船(2011年以
降)の写真が飾られてお
り、外国船に思いをめぐ
らせることができる。寄
港日には乗客向けの
ブースが開かれ、県産品
などお買い得な商品も
並ぶので船に興味のな
いかたも楽しめる。

港の対岸には世界遺
産の「ジャイアントカン
チレバークレーン」が見
えるが、一番の魅力は間
近に迫る客船の迫力。

今年、長崎港にはこれ
までで最大の寄港があ
り、一番多い月がこの9
月。あなただけの客船
観覧スポットを見つる
月になるかもしれない。